

京都市生物多様性プラン（2021-2030） に掲げる施策の取組状況等

本日の次第

- 1 京の生きもの・文化協働再生プロジェクト認定制度 目標 1
 - 2 京の生物多様性担い手宣言制度 目標 4
 - 3 ポータルサイト「京・生きものミュージアム」のリニューアル 目標 4
 - 4 その他事業
 - (1) 民間企業との連携 目標 1～4
 - (2) 活動交流会 目標 1～4
 - (3) 地域生きもの探偵団 目標 3
 - (4) 京の生きもの生息調査 目標 3
-
- 5 推進プロジェクト
 - (1) 京都の自然環境調査（「京都らしさ」を支える生物資源調査） 目標 1～4

1 京の生きものの・文化協働再生プロジェクト認定制度

(1) 現行制度の概要

京都の祭りや文化を支えてきた生きものの保全・再生のための取組を認定し、必要に応じて技術的な支援のための専門家を派遣している。

・ **28件を認定，236団体で取組（令和4年2月末時点）**



武田薬品工業株式会社京都薬用植物園による
「オケラの保全及び五條天神宮節分祭への神朮の奉納」

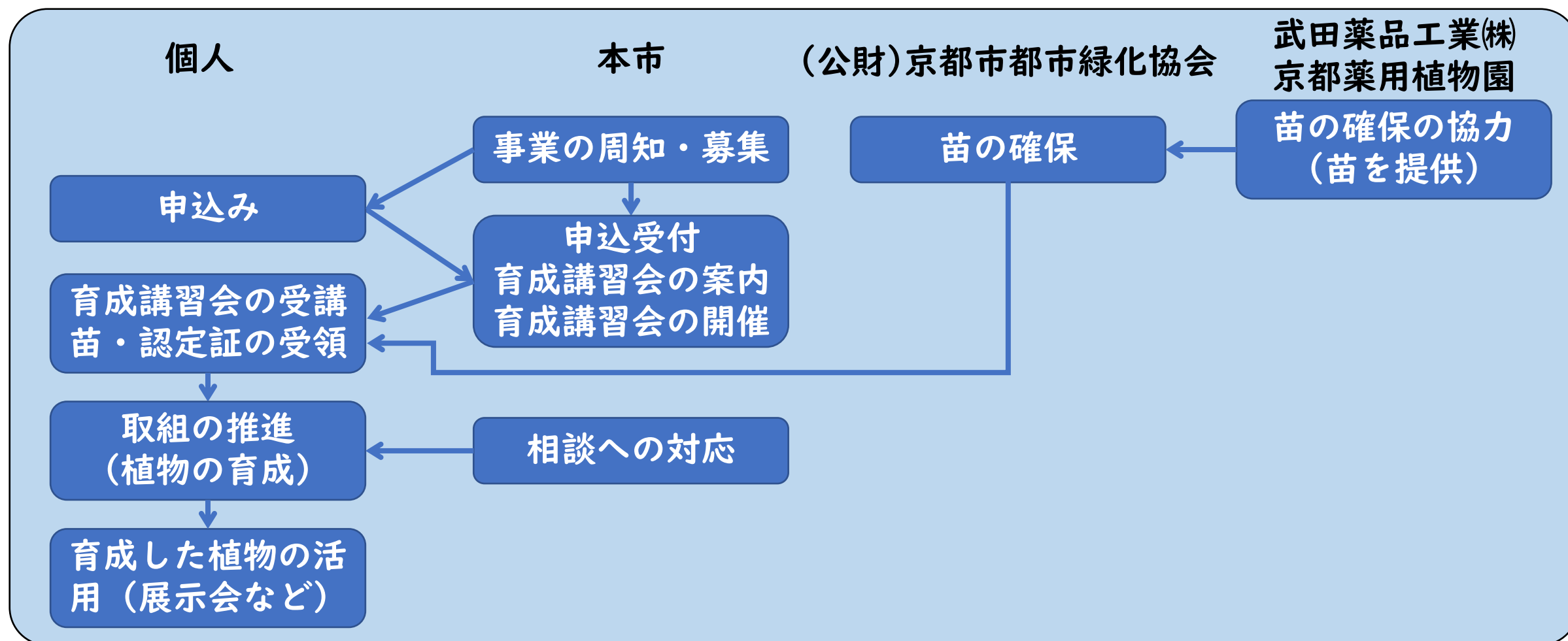
京都市内のK E S 審査・登録事業所による
「ノハナショウブの生息域外保全」 2

1 京の生きもの・文化協働再生プロジェクト認定制度

(2) 制度の拡充

既存の制度について、認定対象を従来の企業・団体に加え、個人にも拡充し、希少種（フタバアオイ、ヒオウギ、ノカンゾウ、イワギボウシ）の生息域外保全に取り組んでもらうことにより、文化を支える生物資源の持続可能な利用を促進する。

<仕組みのイメージ>

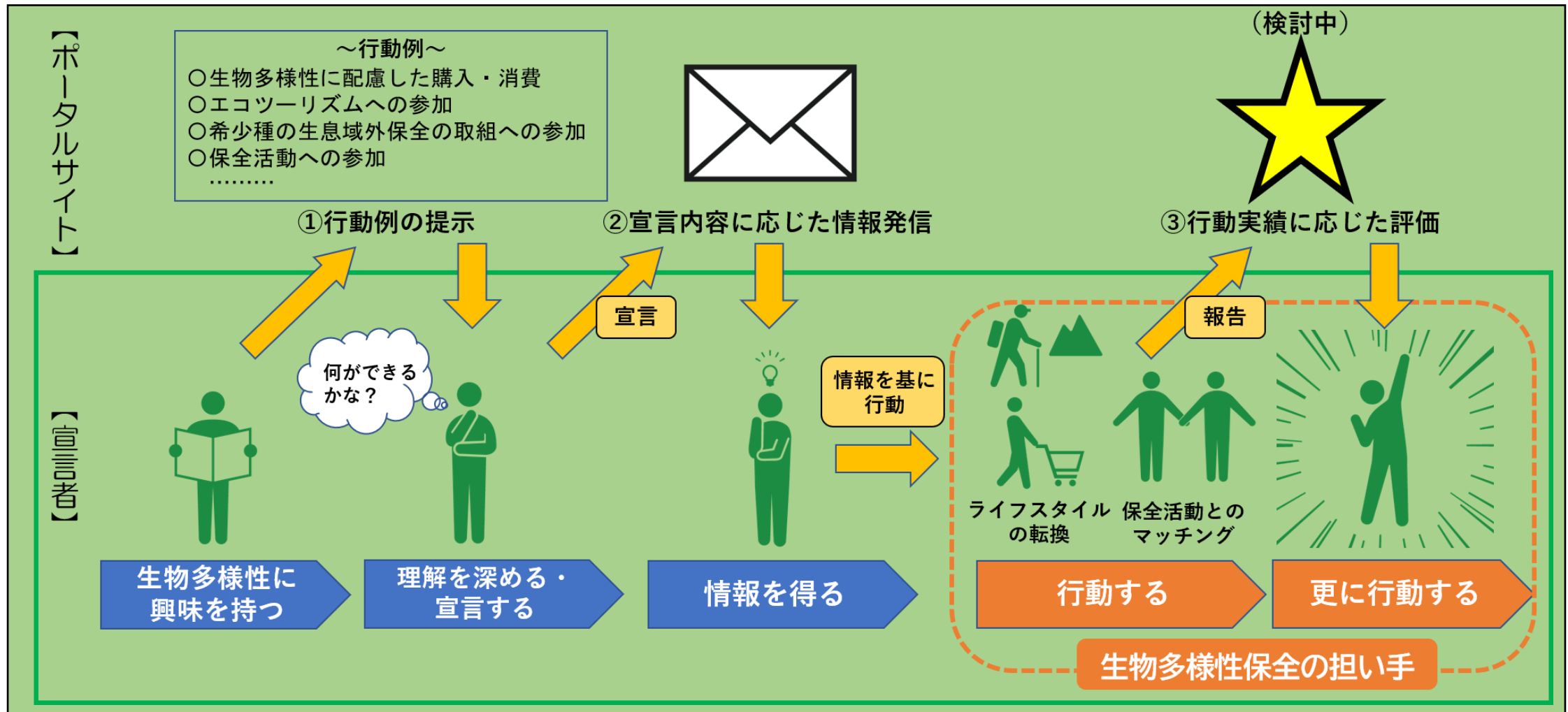


2 京の生物多様性担い手宣言制度

(1) 制度の概要

生物多様性保全の担い手を増やすとともに、生物多様性に関する理解の促進や、行動に移していただく機会とするため、様々な主体が取り組める行動例を示し、できる取組を宣言してもらおうとともに、宣言内容に応じた情報発信を行い、「担い手を必要としている主体」と「行動したい人」とのマッチングを図る。

<仕組みのイメージ>



3 ポータルサイト「京・生きものミュージアム」のリニューアル

(1) 概要

生物多様性の重要性を認識し、「自分ごと」として行動するための取組とあらゆる主体とをつなぐ役割を果たせるよう、ポータルサイトをリニューアルし、情報の集約と発信の強化を図る。

(2) 主な特徴

「バーチャルミュージアム機能」

京都の生物多様性に係る多くの知見を集積し、発信するといった博物館の役割をウェブ上で担う。

「プラットフォーム機能」

生物多様性に係る市内での多様な活動事例やイベント等を集約・発信することで、各主体による活動を支援するとともに主体同士又は主体と活動のつながりを促す。

<新サイトTOPページ(案)>



3 ポータルサイト「京・生きもののミュージアム」のリニューアル

(3) 想定する主な機能

「バーチャルミュージアム機能」

生物多様性に係る情報の集積・発信

- ・ 京都の自然環境等の紹介
- ・ 京都の自然を伝えるコラム
- ・ 京都生きものクイズ

京の生きもの生息調査

- ・ 当該制度の紹介
- ・ 生きものの発見報告及びアーカイブ

「プラットフォーム機能」

イベント情報

- ・ 各種団体によるイベント情報の発信

京の生きもの・文化協働再生プロジェクト認定制度

- ・ 当該制度の紹介
- ・ 個人版の参加者の募集及び受付

京の生物多様性担い手宣言制度

- ・ 当該制度の紹介
- ・ 取り組む項目の宣言
- ・ 宣言項目に応じた情報発信

生物多様性に係る活動

- ・ 活動内容及び活動団体等の紹介

ポータルサイト

4 その他事業（1）民間企業との連携）

（1）概要

市域における生物多様性保全の推進に関し，相互の連携を強化し，取組の促進を図るため，生物多様性保全に関する協定を締結。



- ①協定の相手方：武田薬品工業株式会社京都薬用植物園
- ②協定締結日：令和3年12月23日
- ③連携・協力の内容：生物多様性に関する以下事項について連携し，相互に協力
 - ・生物多様性の持続可能な利用に関すること
 - ・生物多様性の保全・回復に関すること
 - ・生物多様性に配慮したライフスタイルの転換に関すること
 - ・生物多様性の社会変革に向けた仕組みの構築に関すること

（2）今後の取組（予定）

- ・京の生きもの・文化協働再生プロジェクト認定制度への協力
- ・京都に自生する希少な植物種の保全
- ・武田薬品工業株式会社京都薬用植物園における自然観察会や講習会等の開催

4 その他事業（2）活動交流会）

（1）概要

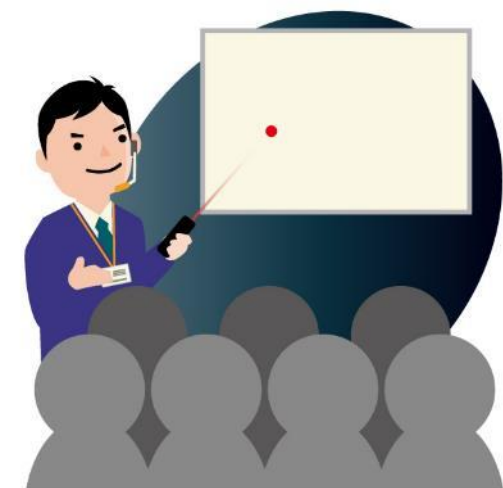
生物多様性保全に係る活動団体，事業者等の皆様による取組を推進するとともに，市民の皆様の生物多様性保全に係る理解を深め，行動を促進することを目的として，研究者及び活動団体等の皆様による研究及び活動内容を共有し交流する活動交流会を開催した。

ア 基調講演「研究者・市民・企業による生物多様性モニタリングと生物資源の持続的利用」
京都大学フィールド科学教育研究センター森林生態系部門森林育成学分野准教授 石原 正恵氏

イ 取組紹介

- (ア) 花脊・別所地域におけるチマキザサ再生に参画する武田薬品・京都薬用植物園の取組
- (イ) 東山における森づくりの取組（京都伝統文化の森推進協議会）
- (ウ) カタクリとギフチョウの谷（西山自然保護ネットワーク）
- (エ) 宝が池の森の現状と再生におけた取組（「宝が池の森」保全再生協議会）
- (オ) 目指すは自然の恵みを活かし・気遣う暮らし（京の川の恵みを活かす会）
- (カ) 嵯峨地域の農林業の活性化と生物多様性保全に関する取組（嵯峨地域農場づくり協議会）
- (キ) 京都市の支援策～エコ学区・さすてな京都～（(公財)京都市環境保全活動推進協会）
- (ク) 京都市における生物多様性の施策（京都市環境管理課）

ウ 取組紹介者及び参加者の意見交換



4 その他事業（2）活動交流会）

（2）開催結果

・会場38名，オンライン74名の合計112名が参加

【参加者の主な意見】

- ・様々なエリア（深山，里山，公園，川など）での活動紹介は，京都ならではの興味深かった。
- ・ポスターセッション形式での意見交換は，交流しやすく良い方法であった。
- ・次回は，課題をフォーカスしても良いかもしれない。
- ・中小企業でも出来る取組を紹介してほしい。



取組紹介



意見交換

4 その他事業（3） 地域生きもの探偵団）

(1) 概要

市内の小学校が授業で自然観察を実施する際に、専門家を派遣し、児童に多様な生きものたちのつながり等について解説する。

従前プランの計画期間である平成27年度から6年間で、約2,000名の児童に参加いただいている。

(2) 今年度の取組状況

- ・ **12校，計17回（480名）実施**



4 その他事業（4）京の生きものの生息調査）

（1）概要

市民参加のもと，市内で見られる生きものの生息状況を把握するとともに，本市の緑や水辺の豊かさ等の自然環境の現状を評価するために実施している。

【調査種の選定基準】

- ・多くの方が調査に参加しやすいよう，親しみがあり，見つけやすい種であること
- ・生息状況を調べることで環境の状態が分かること（環境指標性）

（2）今年度の取組状況

- ・ **598件報告**（令和4年2月末時点）



ツバメ



ハグロトンボ



セミ



ウグイス

各事業の関連

「森」「里」「街・川」「京都らしさ」において関連する取組を一体的に進め、相乗効果を図り、2030年度までの目標達成を目指す。

2030年度までの目標



- ・京の生きもの・文化協働再生プロジェクト認定制度
- ・京の生物多様性担い手宣言制度
- ・ポータルサイト「京・生きものミュージアム」
- ・民間企業との連携
- ・活動交流会 など

推進プロジェクト

各施策

本日の次第

- 1 京の生きもの・文化協働再生プロジェクト認定制度 目標 1
 - 2 京の生物多様性担い手宣言制度 目標 4
 - 3 ポータルサイト「京・生きものミュージアム」のリニューアル 目標 4
 - 4 その他事業
 - (1) 民間企業との連携 目標 1～4
 - (2) 活動交流会 目標 1～4
 - (3) 地域生きもの探偵団 目標 3
 - (4) 京の生きもの生息調査 目標 3
-
- 5 推進プロジェクト
 - (1) 京都の自然環境調査（「京都らしさ」を支える生物資源調査） 目標 1～4

5 推進プロジェクト

(1) 概要

関連する取組を一体的に進め、相乗効果を図る「推進プロジェクト」の4つのテーマ（森，里，街・川，京都らしさ）について、現状把握・調査を行い、庁内外との連携体制を整備し、生物多様性の課題解決に資する取組の掘り起こし等を行う。

森 恵み豊かな森づくりプロジェクト

森林は、多様な生きものの生息場所であるとともに、土砂災害の防止や良質な水を育む^{ひんよう}涵養機能など、私たちの安心安全な暮らしに欠かせないものであることから、森林資源を持続的に利用し、シカ等の食害への対策を進めることで、劣化した森林植生を再生し、森林環境の回復を目指します。



街川 水と緑のネットワーク形成プロジェクト

市街地の緑地や河川は、それぞれに豊かな生態系を形成するとともに、森や里の動物の移動を助け、市域全体の生物多様性を支えていることから、市街地の緑化や生物多様性に配慮した川づくりを推進することで、水辺と緑地の連続性を確保し、生態系ネットワークが確保されたまちづくりを目指します。



里 食と農業プロジェクト

農地は、生きものの重要な生息地であるだけでなく、美しい景観や防災・減災機能など、私たちの生活に様々な恵みをもたらすものであることから、環境に配慮した農産物の生産・消費を促進することで、生物多様性保全機能をはじめとした、多面的機能が発揮される持続可能な農業の推進を目指します。



京都らしさ 「京都らしさ」を支える生きものプロジェクト

京都の伝統や文化、産業、景観等は、多様な生きものの存在によって成立していることから、産業をはじめとする「京都らしさ」の継承に必要な生物資源を特定し、保全・回復の取組を講じることで、生物資源の持続可能な利用を目指します。



5 推進プロジェクト

(2) 各推進プロジェクトの主な活動場所

「森」「里」「街・川」の各テーマについて、市内の多様な地域で取組が進められている。



5 推進プロジェクト

(3) 各推進プロジェクトの取組状況

ア チマキザサの再生

概要	「チマキザサ再生委員会」と協働し、絶滅の危機に瀕する花脊・別所地域のチマキザサ再生を推進する。
課題	<ul style="list-style-type: none"> チマキザサの生産面積の拡大と担い手の確保 チマキザサの販路拡大とブランドの確立
取組	<ul style="list-style-type: none"> 普及啓発事業等の実施

イ 東山の森づくり

概要	「京都伝統文化の森推進協議会」と協働し、東山等において多様な動植物が見られる生物多様性豊かな森づくりを推進する。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 多様な主体（企業等）の参画（資金の不足） 生物多様性豊かな森づくりに向けた取組

ウ 西山の自然環境保全

概要	小塩山及び大原野森林公園における保全活動団体と協働し、希少な動植物が生息する西山の自然環境保全を推進する。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 多様な主体の参画（担い手及び資金の不足）
取組	<ul style="list-style-type: none"> 森林保全活動への参加促進

・・・（随時追加）



5 推進プロジェクト

(3) 各推進プロジェクトの取組状況

エ 「宝が池の森」の保全・再生・利活用



概要	「『宝が池の森』保全再生協議会」と協働し、宝が池とその周辺の森の保全・再生・利活用に取り組む。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目指す将来像や取組の方向性の整理 ・ 生きもののモニタリングや森林管理, 持続可能な利用に向けた体制整備
取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目指す将来像の検討及び策定



オ 天然アユなどの川の恵みを豊かにする活動推進

概要	「京の川の恵みを活かす会」等と協働し、アユ等が生息できる環境作りや持続可能な利用を推進する。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多様な主体の参画 (担い手及び資金の不足)
取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ ネットワークづくりによる多様な主体の参画促進



・・・ (随時追加)

5 推進プロジェクト

(3) 各推進プロジェクトの取組状況

カ 環境保全型農業の推進



概要	環境に配慮した農産物の生産・消費を促進することで、生物多様性保全機能をはじめとした、多面的機能が発揮される持続可能な農業を推進する。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 【生産者】環境保全型農業におけるメリットの「見える化」 【消費者】エシカル消費の実践につながる環境づくりや情報発信
取組	<ul style="list-style-type: none"> 学校の参画による取組の促進

・・・(随時追加)



京都らしさ

「京都らしさ」を支える生きものプロジェクト

キ 「京都らしさ」を支える生物資源調査

概要	京都らしさ（伝統、文化、産業、景観等）を支える生物資源の現状等を把握し、保全・回復の取組を講じることで、生物資源の持続可能な利用を図る。
取組	「京都らしさ」を支える生物資源調査の実施

・・・(随時追加)

5 推進プロジェクト (1) 「京都らしさ」を支える生物資源調査

(1) 調査の概要

京都らしさ（伝統、文化、産業、景観等）を支える生物資源の現状をはじめ、京都の自然環境の現況について、調査を実施する。

ア 文献調査, アンケート調査

構成要素や生物資源の内容の充実
(資料I-1参照)

イ ヒアリング調査

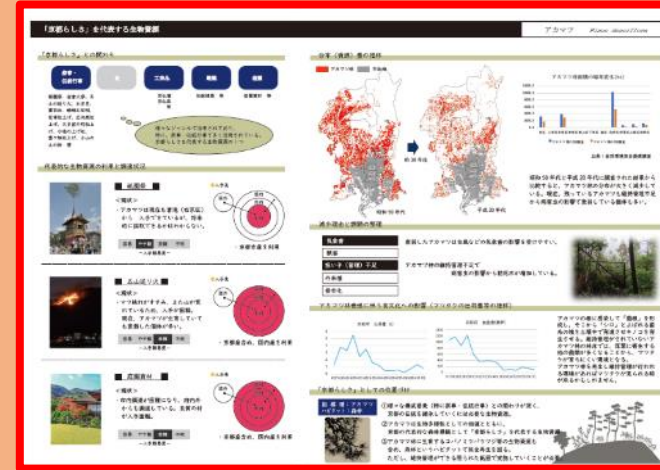
入手困難な状況、
生物資源の調達先の把握
(資料I-1参照)

ウ 詳細に調査する生物資源の絞り込み

生物資源/選定基準	【評価基準1】 生物資源の保全又は利用による本市の生態系保全へのつながり	【評価基準2】 京都らしさの構成要素としての重要性	【評価基準3】 文化等の継続・継承へ生物が果たす貢献度	【評価基準4】 絶滅等が危惧される種である	【評価基準5】 生物資源の保全又は利用により得られる生態系サービスの市民への分かりやすさ	要素	主な環境 ハビタットとして
マン	●	● (37)	● (19)			森林	スサキ林
コノハシツバクツ	●		● (6)			森林	スサキ林
マンラケ	●		● (6)			森林	スサキ林、雑木林
チマキガサ	●	(4)				森林	雑木林
フタバアオイ	●	(4)				森林	雑木林
フジ	●	● (20)	● (18)			森林	雑木林
シキキ	●	● (8)				森林	雑木林
ホノキ	●	● (30)	● (7)			森林	人工林
スギ	●	● (35)	● (8)			森林	人工林
栗	●	● (12)				森林	雑木林
イチノ	●	● (18)				森林	雑木林
オシロコ	●			● (絶滅寸前)		森林	雑木林
アユ	●					森林	雑木林
タケノコ	●		● (6)			森林	雑木林
タケ(モウソウチク、マダケ)	●	● (44)	● (22)			森林	雑木林
キョウ	●			● (絶滅寸前)		森林	雑木林
オクラ	●			● (絶滅寸前)		森林	雑木林
ススキ	●	● (8)				森林	雑木林
カキツバタ	●			● (絶滅寸前)		森林	雑木林
ムササギ	●			● (絶滅寸前)		森林	雑木林
カンフ	●			● (絶滅寸前)		森林	雑木林

選定基準に基づき絞り込み
 ①生物資源の保全又は利用による本市の生態系保全へのつながり
 ②京都らしさの構成要素としての重要度
 ③文化等の継続・継承へ生物が果たす貢献度
 ④絶滅等が危惧される種である
 ⑤生物資源の保全又は利用により得られる生態系サービスの市民への分かりやすさ
 (資料I-2参照)

エ 詳細調査



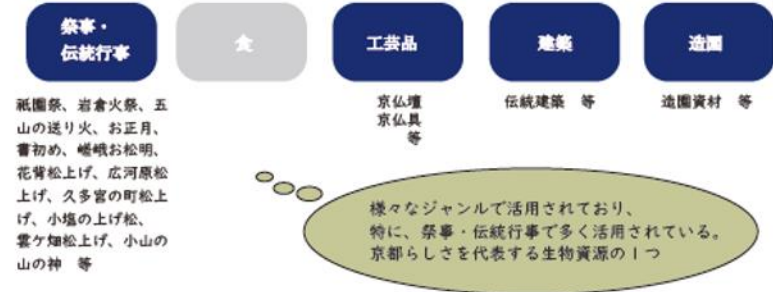
生物資源ごとにカルテを作成
(次頁参照)

5 推進プロジェクト (1) 「京都らしさ」を支える生物資源調査

(2) 生物資源ごとのカルテ (イメージ)

「京都らしさ」を代表する生物資源 アカマツ *Pinus densiflora*

「京都らしさ」との関わり



代表的な生物資源の利用と調達状況

祇園祭

<現状>
・アカマツは現在も清滝 (右京区) から 入手できているが、将来的に採取できるかはわからない。

容易 **やや難** **困難** **不明**
-入手難易度-

入手先
● 国内 (府内) ● 国内 (府外) ● 国外

・京都市産を利用

五山送り火

<現状>
・マツ枯れがすすみ、また山が荒れているため、入手が困難。現在、アカマツが生育しているも衰弱した個体が多い。

容易 **やや難** **困難** **不明**
-入手難易度-

入手先
● 国内 (府内) ● 国内 (府外) ● 国外

・京都産含め、国内産を利用

庭園資材

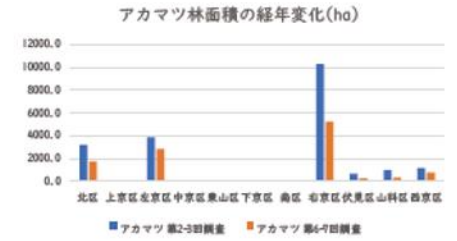
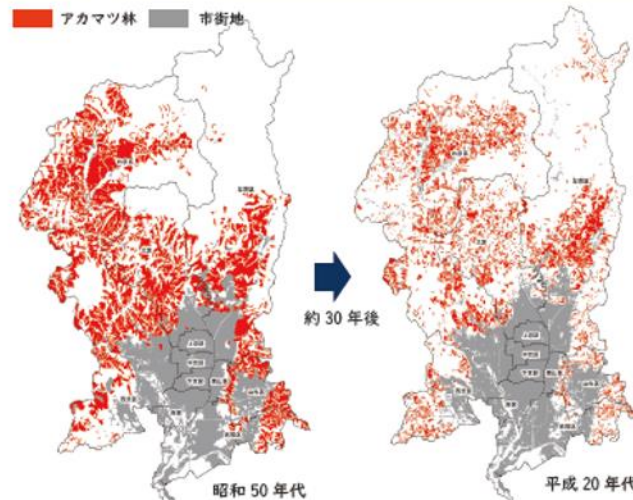
<現状>
・市内調達が困難になり、府内外からも調達している。良質の材が入手困難。

容易 **やや難** **困難** **不明**
-入手難易度-

入手先
● 国内 (府内) ● 国内 (府外) ● 国外

・京都産含め、国内産を利用

分布 (資源) 量の推移



出典：自然環境保全基礎調査

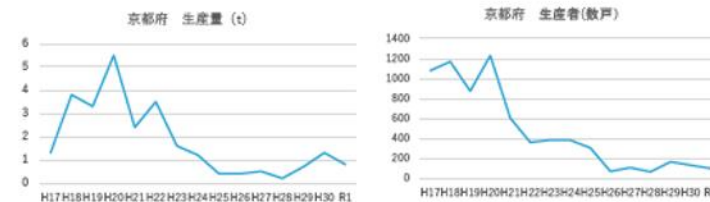
昭和 50 年代と平成 20 年代に調査された結果から比較すると、アカマツ林の分布が大きく減少している。現在、残っているアカマツも維持管理不足から病害虫の影響で衰弱している個体も多い。

減少理由と課題の整理

- 気象害** 表弱したアカマツは台風などの気象害の影響を受けやすい。
- 獣害**
- 担い手 (管理) 不足** アカマツ林の維持管理不足で病害虫の影響から枯死木が増加している。
- 外来種**
- 都市化**



アカマツ林衰退に伴う食文化への影響 (マツタケの出荷量等の推移)



アカマツの根に感染して「菌根」を形成し、そこから「シロ」とよばれる菌糸の塊を土壤中で発達させキノコを発生させる。維持管理がされていないアカマツ林の林床では、落葉に寄生する他の菌類が多くなることから、マツタケが育ちにくい環境となる。アカマツ林を再生し維持管理が行われる環境があればマツタケが見られる時が来るかもしれません。

「京都らしさ」としての位置づけ

- 指標種：アカマツ**
ハビタット：森林
- 様々な構成要素 (特に祭事・伝統行事) との関わりが深く、京都の伝統を継承していくには必要な生物資源。
 - アカマツは生物多様性としての価値とともに、京都の代表的な森林景観として「京都らしさ」を代表する生物資源。
 - アカマツ林に生育するコバノミツバツツジ等の生物資源も含め、森林というハビタットで保全再生を図る。ただし、維持管理ができる限られた範囲で実施していくことが必要。

